

## 植物検疫統計から見る輸出入植物等の動向

植物防疫所では、実施した輸出入検査について、その検査件数、数量等の統計をとっている。これらは植物防疫所のホームページで公開されているが、ここではそのデータを基に、我が国の輸出入の検査の傾向とその背景について解説する。

輸出植物検査件数で増加が目立っているのは、栽植用植物（貨物）で 2010 年から 2012 年までの 3 年間で 9,380 件から 10,207 件に増加している。これは、海外で人気の高まっている盆栽や植木類等の輸出が堅調に推移していることが要因の一つと考えられる（盆栽等の輸出検査については、本誌 88 号参照）。

諸外国は、日本と同様に病虫害の侵入及びまん延を防止するため植物検疫制度を設けている。諸外国の植物検疫条件には、輸出国での消毒措置や栽培地での病虫害の検査等、様々なものがあり、日本から農産物を輸出するためには、そのための検疫条件を確立することが必要なも

もある。これまでに条件が確立され輸出可能となった農産物には、タイ向けうんしゅうみかん（2013 年の輸出検査実績（以下同じ）：12 件 20,310kg）、台湾向けナシ（188 件 547,714kg）及びリンゴ（1,913 件 16,835,016kg）の生果実などがある。

輸入植物検査実績も国民の多様な食生活のニーズを反映して、件数が増加している。輸入貨物では生果実が 2010 年から 2012 年の 3 年間で 53,957 件から 55,354 件に増加している。これに伴い、検査で検疫有害動植物が発見された場合に行われる消毒（13,054 件から 13,225 件）や廃棄措置（428 件から 509 件）もそれぞれ増加している。輸入量の増加に伴い、病虫害の侵入リスクが高まるおそれがあるため、植物防疫所では、検査技術の向上に努めるとともに、海外で発生している病虫害の情報を収集することにより、侵入とまん延の防止を図っている。

## 海外のニュース

### ヨーロッパで分布を拡大しつつあるマツノザイセンチュウ

マツノザイセンチュウ（*Bursaphelenchus xylophilus*）は、アカマツ等の感受性の松を急激に枯死させる「材線虫病」の病原体であり、欧州連合諸国（EU）が特に侵入を警戒している線虫である。このマツノザイセンチュウが、ヨーロッパで分布を拡大しつつある。

ヨーロッパでは、1999 年にポルトガルで初めて本線虫の発生が確認され、同国は発生調査の結果に基づいて発生範囲を定め、木材の検疫規制を開始した。発生地域の被害樹木は全て焼却し、病徴の現れていない木材やこん包材についても、移動前の消毒（熱処理、薬剤の加圧注入又はくん蒸）を義務付けるなど、根絶を目指した防除を行っているが（本誌 64 号参照）、根絶には至っていない。

ポルトガルでの発生を受け、隣国のスペインも本線虫への警戒を強めており、危機管理計画を策定して、国境付近における調査を強化してきたところである。しかしながら、2008 年に国境に近いエストレマドゥーラ州の複数の地域から本線虫が発見され、さらに 2010 年には同国北西部のガリシア州、2013 年にはカスティー

リャ・レオン州で発見されている。ガリシア州は、約 38 万 ha のフランスカイガンショウ（*Pinus pinaster*）の森林を有しており、スペインの木材産業にとって重要な地域となっている。本線虫がまん延すれば甚大な被害が予想されるため同国は、これまでに確認された発生範囲を特定し、罹病した樹木は全て廃棄した。また発生時の行動計画や防除対策を定めた地方令の整備を進めており、本線虫の根絶とまん延防止に努めているところである。

#### 参考文献

- ABELLEIRA, A, A. PICOAGA, J.P. MANSILLA AND O. AGUIN (2011). Detection of *Bursaphelenchus xylophilus*, causal agent of pine wilt disease on *Pinus pinaster* in northwestern Spain, *Plant Disease*, 95 (6) , 776
- EPPO (2014) New outbreak of *Bursaphelenchus xylophilus* in Spain. *EPPO Reporting Service*. 2014-020

発行所 横浜植物防疫所  
 発行人 小野 仁  
 編集責任者 塚本 貴敬

掲載 植物防疫所ホームページ <http://www.maff.go.jp/pps/>